

品目別レポート（みそ）

■品目説明

みそは、蒸し煮した大豆、麦などの穀類に麴（穀類を蒸し煮して麴菌を培養したもの）を加え、これに食塩と水を混合し、発酵・熟成させることによってできる半固体状のものである。

みその種類は麴の原料から米みそ、麦みそ、豆みそ、調合みその4種類に分類される。

みそは、かつて、合成樹脂製小袋（エバール、ポリエチレン、ナイロンのラミネートなど）で流通する形態が過半を占めていたが、近年は軽くて丈夫な合成樹脂製カップ容器の使用割合が増加している。また、これまで主力だった1.0kgサイズが750gサイズに移行した。これは、家庭での使用量の減少、景気低迷による購買単価の低下、原料コストの上昇などの影響によるものである。

全国味噌工業協同組合連合会の集計によると、20年のみその出荷数量は前年比2.9%減の39万8,536トンであった。国内出荷量は2001年に50万トンを下回り、年々減少傾向にある。

■貿易概況

▼表1：日本のみそ輸出

（単位：ドル、トン、%）

	2018年		2019年		2020年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
米国	7,746,947	4,599	8,721,031	4,818	8,890,484	4,160	1.9	△ 13.7
中国	2,321,429	1,248	2,782,074	1,389	3,280,756	1,519	17.9	9.4
台湾	2,382,457	958	2,390,542	930	2,753,526	1,036	15.2	11.4
オランダ	1,610,090	406	1,665,879	470	2,366,858	623	42.1	32.6
オーストラリア	1,854,323	816	1,784,470	772	2,164,311	834	21.3	8.0
全世界	31,885,368	17,010	35,058,126	18,434	36,046,180	15,995	2.8	△ 13.2

注：対象はHSコード 2103.90-100

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

20年の輸出額は前年比2.8%増の3,605万ドル、輸出量は同13.2%減の1万5,995トンとなった。

輸出額を相手国・地域別にみると、1位の米国が前年比1.9%増の889万ドルと全体の24.6%を占めた。次いで中国（前年比17.9%増の328万ドル）、台湾（同15.2%増の275万ドル）、オランダ（同42.1%増の236万ドル）の順で、北米、アジアを中心に輸出されている。

■海外事情

●米国

▼表2：米国のみそ輸入量

(単位：ドル、トン、%)

	2018年		2019年		2020年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
日本	11,549,590	5,128	12,801,169	5,329	12,954,945	4,647	1.2	△ 12.8
韓国	3,088,473	1,479	3,520,080	1,870	9,638,589	6,488	173.8	247.0
台湾	7,346,751	2,416	8,170,911	2,689	8,192,182	2,604	0.3	△ 3.2
中国	7,021,157	2,791	6,582,499	2,793	6,816,634	2,963	3.6	6.1
カナダ	7,049,759	4,319	4,952,785	3,073	3,207,276	1,554	△ 35.2	△ 49.4
全世界	37,227,197	16,536	37,959,592	16,229	42,759,735	18,781	12.6	15.7

注：対象は米国HTSコード 2008.99.9110

(Bean Cake, Bean Stick, Miso And Similar Products, Prepared Or Preserved Nesoi)

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

20年のみその輸入額は4,275万ドル(前年比12.6%増)、輸入量は1万8,781トン(同15.7%増)であった。

主要輸入相手国・地域では、1位が日本で輸入額は1,295万ドル(前年比1.2%増)、2位が韓国で963万ドル(同173.8%増)、3位が台湾で819万ドル(同0.3%増)、4位が中国で681万ドル(同3.6%増)、5位がカナダで320万ドル(同35.2%減)であった。

日本のみそに対する需要が高い一方で、しょうゆと同様にみそに含まれる塩分の高さに関する指摘もあるため、減塩やオーガニックみそなどの普及を進めるとともに、みそに含まれる栄養成分や健康効果を引き続きアピールしていく必要がある。

米国内日本食レストラン向けのみその輸入は、中国などの第三国で生産されたみそと日本産みそが競合している。米国内の日本食レストランは、韓国系や中国系オーナーが経営している店も多く、彼らは出身国から輸入された製品を使用する場合も多い。

日本のみそメーカーが米国内で生産している場合もあり、それらのMade by Japanの商品と合わせると、実際に米国で販売されているみその数量は輸入量よりも多くなる。また、日本企業が中国で生産して、米国へ輸出する場合もあるので、中国からの輸入量に影響している可能性もある。

近年、米国で人気の発酵茶 KOMBUCHA やヨーグルト、キムチなどの発酵食品が心疾患予防や体重管

理などに良いとされ研究が進んでおり、みそや麴も注目されている。みそ汁など、みそを使用したメニューは日本食の定番であり、発酵食品ブームでみそが注目されることによって、さらに日本食人気が高まることが期待される。

●中国

▼表3：中国のみそ輸入量

(単位：ドル、トン、%)

	2018年		2019年		2020年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
韓国	23,353,040	12,472	29,547,183	17,258	43,885,165	26,897	48.5	55.9
タイ	20,384,958	10,575	22,764,822	11,728	23,341,588	11,047	2.5	△ 5.8
日本	10,394,321	1,974	14,623,979	2,891	18,079,133	3,639	23.6	25.9
台湾	15,535,877	5,305	13,236,096	5,264	13,569,538	4,746	2.5	△ 9.8
香港	11,253,905	3,155	14,124,392	4,807	10,610,757	3,283	△ 24.9	△ 31.7
全世界	136,474,480	49,670	153,991,988	59,643	172,999,954	66,220	12.3	11.0

注：対象はHSコード 2103.90-90

(Other Sauces, Mixed Condiments/Seasonings, Nes; Other Sauces, Mixed Condiments/Seasonings, Nes)

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

20年の輸入額は前年比12.3%増の1億7,299万ドル、数量は11.0%増の6万6,220トンとなった。主要相手国別にみると、1位は韓国で前年比48.5%増の4,388万ドル、数量は55.9%増の2万6,897トンとなった。日本は3位で、輸入額は前年比23.6%増の1,807万ドル、数量は同25.9%増の3,639トンであった。

ジェットロ現地市場価格調査(20年4月)によれば、深センの富裕層向け現地系店舗における『マルコメ ダシ入りみそ』300gが25人民元(約402円)、北京のアップーミドル層向け現地系店舗における韓国産500gが19.9人民元(約319円)、中国産赤みそ500gが18人民元(約289円)であった。

本レポートに関する問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産・食品部 農林水産・食品課

〒107-6006
東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル
TEL：03-3582-5186

【免責事項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る自体が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。